



# 有限会社 北次農場

代表取締役 **北次 聖**

会社理念：川北町に耕作放棄地を作らない！

石川県能美郡川北町

<https://www.instagram.com/kitajinojo.kawakita/>

**設立年月**：平成5年3月

**構成員**：6名

**基幹作物**：大麦 33ha、大豆 55ha  
(R5) 水稻 67ha (4品種)  
いちじく 7a (コンテナ栽培200本)



**特徴**：**水稻・大麦・大豆の2年3作体系を導入しており、生産に特化した年間作業体系を組むことで効率性・収益性の高い水田フル活用を実現している。**  
**スマート農業を積極的に取り入れ、排水対策等の確実な実施による収量の高位安定化とコスト低減を実施。**

## 栽培のポイント

### ○単収の向上や収量・品質の安定化のための取組み

#### ・排水対策

大麦栽培は**排水対策が重要**との認識から、**排水性の良い圃場づくり**から始めている。

前作の水稻の品種や栽培方法を考慮し（晩稲より早稲のほうが排水性が良い）、播種前に**すべての圃場でサブソイラによる暗渠**、溝堀機による**額縁排水**、播種同時のサイドリッジャーによる**ほ場内明渠**で排水対策を徹底している。

また、越冬後には**排水路の点検**作業を行い、**破損している場合には修繕**するなど排水を心掛けています。

#### ・追肥

JA指導の下、地域内で**生育量や葉色の目合わせ**、**幼穂調査による施肥時期の予報**などの情報が共有され、**適期施肥**を実施している。



## 栽培のポイント

### ○効率的に作業を行うための工夫

#### ・特注作業機の導入

耕起から除草剤散布までの工程を一度に行うために、農機メーカーと相談して既存の機械を組み合わせた「搭載型シーダ」（ニプロ）を導入。

碎土率の高いロータリーにスリップローラシーダを組み合わせ、更に除草散布機を組み込むことで、耕起、施肥、播種、鎮圧、除草を同時に行うことを実現。

作業効率を高め、初期生育の確保と除草効果も高めている。

### ○播種時期

播種適期は10月中旬とされているが天候が悪くなっていくため、10月上旬に播種を実施している。

莖数の確保ができ雑草を抑えられるが、肥料切れが懸念される。



## 経営のポイント

### ○効率的に作業を行うための工夫

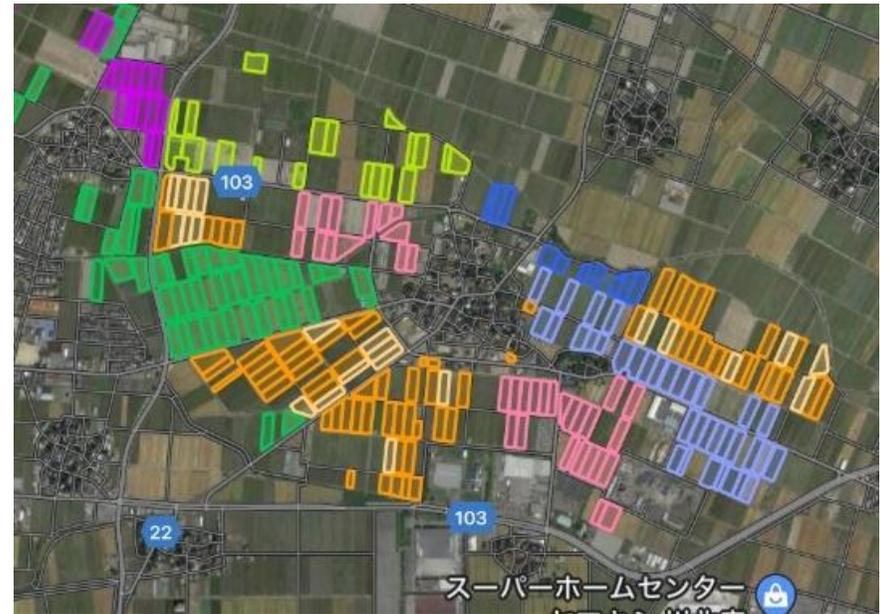
#### ・スマート農業の導入

トラクターのGPS自動操舵「トリンブル」を導入し、無駄のない播種実現により省力化。

経営管理や圃場管理の見える化のため管理ツール「アグリノート」を導入することで効率化を図っている。

#### ・大麦作業前段階の取り組み

播種前の排水対策実施時期が水稻の収穫時期と重なり、作業競合が発生していたことから、水稻の乾燥調製施設の能力を拡充して労力を確保し、排水対策の確実な実施に結び付けている。



## 大麦生産の課題

- ・ 県内地域の最大の反収は多いときで約700kgと聞いている。**まだまだ伸び代はある**と思っているので、少しでも近づけるよう**土壌性質以外で取り組めることを模索**検討する。
- ・ **気候変動**により生育状況が年々変わってきている。**適期施肥及び施肥量の重要性**を理解し、**ムダムラのない施肥を実現**するため、**更に重労働の回避**のため、**ドローンでの施肥**を検討する。
- ・ 作付面積が増えることでの**適期播種のズレを最低限に抑える**対策をする。

### \* 石川県平均単収との比較（10a当たり収量）

年度	北次作付面積	北次平均	県平均
2014	15ha	332kg	248kg
2020	18ha	410kg	359kg
2023	33ha	412kg	303kg

## 今後の展望

今後も引き続き、**水稲・大麦・大豆の2年3作体系**による**水田農業を確立**するため、**団地化を基本**として、大麦の作付けを今年度（R6年産）35ha、**最終的には45haくらいまでは増えてもよい体制を整えたい。**

そのため、前述した**大型機械の一貫体系**や**スマート農業技術の導入**による**省力化を更に進めていく**。併せて、**従業員間の情報の共有化**や**作業の見える化**によって水稲・大麦・大豆の**作業競合を回避しつつ、今まで以上に排水対策の徹底と生育診断に基づく栽培管理に努めること**で**収量の増加と品質の向上**を目指す。

これからも収量の増加、品質の向上が見込める作物でまだまだ**新しい生産技術の発見**があると思う。

**いろんなところにアンテナを張り、素早く情報をキャッチ**できるよう心掛けチャレンジしていく。